

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	からはーい J r		
○保護者評価実施期間	令和6年4月1日		～ 令和7年5月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 6
○従業者評価実施期間	令和6年4月1日		～ 令和7年5月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月30日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子ども達に合わせ、子どもの特性を理解した、活動、対応をしている。共感的に対応している事もあり、子ども達が安心して、安全に過ごせ、更に、子ども達が楽しめる事業所となっている。	・職員育成の中で、職員一人一人が「児童の権利」を意識していく事で「しょうがいがあっても無くても」子ども達の持つ「人間としての尊厳」「みらいへの可能性」に対し真摯に向き合っている。 ・発達障害、知的障害、強度行動障害、ダウン症について学び、子ども達の「見え方」や「感じ方」について考え、専門的、かつ、状況に応じ一般的に向き合っている。	・日々、定期的に業務、意識の振り返りを行い、ズレが無い か、偏りが無いか確認していく。 ・定期的に知識、技術の確認していく。
2	・専門性が高く、個別支援計画に沿って、固定化されないような工夫された活動が取り組まれている。	・個別計画を見る機会を多く持っている。 ・活動のプログラム(設定遊び、自立活動)の策定時に「今の児童の嗜好」等を踏襲し、柔軟な発想で策定していく事を大切にしている。 ・感覚統合、ABA、TEACCH、SST、ティーチャーズトレーニング等を勉強し、支援、療育、日頃の児童の対応等に汎化できるように努めている。	・引き続き、計画を見る機会を多く持つ。 ・引き続き、柔軟な発想でプログラムを策定していく。 ・定期的に知識、技術の確認を行い、引き続き、勉強をしていく。 ・事業所独自の「対応技術」としての体系化を目指す。
3	・事業所は清掃され、心地よい環境が確保されており、怪我等があった際には速やかな連絡がある等、意思疎通、情報伝達が柔軟に行える体制が整っている。	・子ども達が笑顔で楽しく安全に過ごせるように、の考えの基に、清掃等にも時間がかけられるよう、業務見直しを定期的に行い、デジタル化を推進し、項数削減に努めている。 ・デジタル化に準じ「迅速な連絡手段」としてLINE(状態の共有が写真等でし易い)、SMS等を用いている。	・引き続き、項数削減を行い「子ども達が笑顔で楽しく安全に過ごせるように」より有効的な業務ができるようにしていく。 ・公式LINEの活用方法の整備、模索を行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・「家族支援」として、家族会の支援、保護者向けの勉強会等の支援について取り組みが少なかった。	・意図的では無いが、コロナ時期にあった「集まり等を控える」意識がまだ残っており「会等の開催」に対し、積極性が足りなかった。 ・保護者会、家族会、きょうだい交流会等…のニーズに対し支援、サポートできるように「ニーズの吸い上げの形」の必要性がある。「事業所との懇談会を実施	・集まりの機会、事業所が勉強会を企画していく。 ・「事業所との懇談会」を実施し、ニーズの汲み取りを行い、実施、実践に繋げていく。
2	・「情報発信」のツールが連絡ノートしかない。	・LINE等のSNSを介したやり取りなどは柔軟に行えていると思われるが「写真等の使用」に関する規定等が定めきれず「活動の様子発信」については保留となっていた。	・「写真の使用」に関する規定を定めて「活動の様子発信」が行えるように検討していきます。 ・公式LINE(学校でいうスクリレ、マチコミ)を整備して、今の時代にあった情報発信の仕方を整備していきます。 (個別で紙面での対応も柔軟に実施していきます)
3	・令和6年度は「運動」にかかる活動が少なかった。	・意図的では無いが、運動(体を動かす)活動が少なかったと思われる。	・今年度は前年度よりも、もっといっぱい元気に体を動かせる活動を充実させていきます。 ・熱中症対策も実施しながら、暑熱順化を行い、スムーズに戸外活動が行えるようにしていきます。 ・コロナ期で培った「室内でも運動をする」知識、技術を駆使し、運動の活動を行っていきます。